

★ 今年のキーワードを「一人三役」にしてみても如何でしょうか！？

昨年10月15日、第3次安倍内閣のもとで「第一の矢：希望を生み出す強い経済」「第二の矢：夢をつぐむ子育て支援」「第三の矢：安心につながる社会保障」という「新・三本の矢」の実現を目的としたスローガン「一億総活躍社会」が高らかに宣言されました。具体的には、第一の矢の的が「GDP600兆円」、第二の矢の的が「希望出生率1.8」、第三の矢の的が「介護離職ゼロ」としてありますが、このスローガンが発表されるや否や、各方面からその財源面での実現性がかなり疑問視されています。また、戦争を体験した世代の方々を中心に、この「一億総活躍社会」が「一億総懺悔」や「一億総玉砕」と重なって見えてしまうことから、マイナスのイメージを持たれることもあるようです。しかしながら、そこはもっとポジティブに考えて、我々一人ひとりがそれぞれの分野において、自助努力ということで、一步でも、いや半歩でも前に踏み出すことが大事なのではないでしょうか。

年明けの経済情報番組で、著名な経営コンサルタントの方が政府の掲げる「一億総活躍社会」の実現に向けて次のような提言をしていました。

- ・人生、二毛作・三毛作の社会に転換すること（つまり、長い人生の中で二つ、三つのキャリアを持つこと、例えば「二足・三足のわらじ」）
- ・そのためには定年してからでは遅いので、壮年のうちから準備すること
- ・企業としても副業禁止規定を廃止すること

今以上に進んで行く少子高齢化社会においては、国の政策に期待するには自ずと限界があります。であるならば、その前に先ず個人の意識改革が必要ということのようです。

また、同じ番組ではもうひとつ、埼玉県春日部市で27年間営業黒字を出している菓子製造会社「三州製菓」の「一人三役制度」という取組みを紹介していました。この会社の全従業員約250人の内、女性従業員が7~8割と多いことから、「女性が活躍できる会社にしたい」という社長の強い思いを反映させた制度を作り上げたようです。具体的には、女性に付いて回る子育ての負担（子どもの急な病気による早退や欠勤など）を少しでも軽減するためには、女性が気兼ねなく会社を休める体制を整える必要があると判断し、自分の仕事以外に2つ仕事を覚えることを制度化しました。制度化に当たって、部門ごとに職務分析を行って仕事の内容を細かく書き出し、その習熟度を6段階（新人→見習→補佐→担当→玄人→達人）に分類し、従業員自らが現時点でどの段階に位置しているかがわかるようにしています。

この制度の導入は、以下の副次的効果ももたらしたとのこと。

①社内の風通しが良くなった

複数の仕事をこなすことで、他人の仕事の大変さを体感し、他人への思いやりの心が醸成された。

②顧客満足度がアップした

直接の担当者が不在でも、顧客からの急な発注などに対応できるようになった。

③採用活動がしやすくなった

女性が働きやすい職場という社会的評価が世間に定着し、応募者が増えた

④社内の人材育成にプラスの影響がでた

仕事の習熟度を6段階で表示したことで、従業員にスキルアップしようという意識が芽生え、仕事に対する積極性が出てきた

以上、社内・社外にこだわらず複数の仕事をこなす必要性を見てきましたが、人にはそれぞれに家庭があり、仕事があり、暮らしている地域社会があります。そのすべてに常に100%の力を注ぐことはできないにしても、今の世の中は「家庭人」「職業人」「地域人」という3つの役割をバランスよくこなしていくことも求められていると言えるでしょう。（工藤克己）